



いよいよ今年の最終、12月に入りました。12月は師走とも呼ばれ、人々が、とても忙しく動き回る月だと感じます。諸説はいろいろあるようですが、仏事に忙しく走り回る僧侶の姿を指して、そういうふうにいわれるようになったとも聞きます。私も、この月を迎えると不思議と体が動き、仕事の片付けに入ってしまう。新しい年を迎える準備とも言えますが、怪我のないように十分に気を付けて新年の準備をしていきたいものです。

おめでとう！



## 「博報賞」の奨励賞を受賞！

### 富山県朝日町保小中一貫教育校

～ 朝日町立小学校・中学校における地域と一体的なふるさと学習の推進 ～

※ 活動領域：日本文化・ふるさと共創教育

朝日町の小中学校が、公益財団法人博報堂教育財団から第54回（2023年度）「博報賞」の奨励賞（後援 文部科学省）が授与されました。授与式は、日本工業倶楽部会館で行われ、木村博明教育長と竹内 静さみさと小学校校長が出席されました。この受賞は、富山県内では、唯一の受賞です。

### ○ 「博報賞」とは



この「博報賞」は、児童の教育現場の活性化と支援を目的としており、財団設立とともにつくられたものです。理念として「ことばの力を育むことで、子供たちの成長に寄与する」ことが掲げられています。今回、朝日町の小中学校は、この理念のもと

- ・ 波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献
- ・ 成果の共有、地道な活動の継続と拡大を行っている実践

の教育的実践を行い、教育現場で尽力している学校であると高く評価され、表彰されました。

### ○ 賞の内容

日本国内在住の6～15歳（特別支援教育は4～18歳）の子供たちに対する「国語・日本語・ことばの育成に関わる教育実践」と「特別な配慮や多様なニーズのある子供のコミュニケーション活動を支援する教育実践」を軸に、以下の6分野が受賞対象です。

- 1 国語教育
- 2 日本語教育
- 3 特別支援教育

◎ 4 日本文化・ふるさと共創教育 . . . . . 朝日町保小中一貫教育が受賞

- 5 国際文化・多文化共生教育
- 6 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動

以下に朝日町が行っている活動内容と 審査委員からのコメントを載せます。

## ○ 活動内容

**奨励賞** 富山県朝日町保小中一貫教育校

**活動紹介** 保育園と小中学校が一体となり、ふるさとの良さと課題を知るふるさと学習

人口1万1千人の朝日町には中学校が1校、小学校が2校、保育所が3箇所ある。令和4年4月からは、これらの学校等があらためて保小中一貫校として開校した。小中学校に独自教科「ふるさと科」を創設し、9年間を通した系統的にふるさと愛を育む活動をしている。この活動は10年以上前から学校と地域で町ぐるみの多彩な取り組みを計画し、実践してきた歴史的な基盤の上に成り立っている。少子化や若者の流出という課題に対して、ふるさと教育の推進をオール朝日町で推進してきたのである。小学校ではゲストティーチャーの協力を得て、「地元蛭谷和紙を使った卒業証書用紙づくり・卒業記念の掛け軸づくり」など豊かな自然や歴史、文化などの体験学習を進め、中学校では「我が町・朝日再発見」の学習で、持続可能な朝日町となるための解決策の提案に向けて地域の方から真剣に話を聞いている。後継者不足や地元企業での就業体験により人々の努力を学び、感謝の心を育んでいる。子どもたちのコミュニケーション能力が高まるだけでなく、地元住民にもゲストティーチャーを担うことの生きがいと励みが生まれ、地域のみんなで子育てをする風土が醸成されてきている。

## ○ 審査委員からのコメント

保育園と小中が一体化した教育活動に「ふるさと科」を新設した。ここに、「ふるさと愛」を育もうという目標を明確にした。地域と共にみんなで子育てや教育を支援していく地道な教育は、全国と比較して、北陸地方においてふるさとに戻ってくる若者が増加している結果となって表れていると考える。「ふるさと科」の指導計画は「郷土の自然」「文化・産業」「人物・歴史」「施設」等をバランスよく配置したものである。この指導を継続させ、発達段階に応じた指導の軽重を加えた指導の充実を期待するものである。



次回は、第2回学校運営協議会（12月21日開催）の内容をお伝えできればと考えています。

朝日町地域学校協働本部（朝日町教育センター内）

電話：090-7180-9179

FAX：(0765)83-0279

担当 山崎

Email：asahi.chiikigakkoukyoudouhonbu@gmail.com